

歌誌 黄雞「秋号」投稿歌

(新仮名) (*..写真短歌)

山形短歌会 黒沼 貞志

歌題 「Hell on earth」

風に乗り庭に届きしもみじ葉のおしろい粧う初霜の朝

朝ぼらけ弥生最後のなごり雪外山も白く斑に染まる

窓越しの光をまとう木蓮にそっと声かけ春をうかがう (*)

バス車中翁嫗で賑わいて訛り飛び交うクラス会の旅

午の春土手に群れ咲く山吹の花をそよがす風吹き降りき (*)

記念日を夫婦で祝うレストラン話す相手はスマホの向こう

主菓子が届く父の日薄茶たて小意気に過してメールで返礼

幾千の彼岸の兄の蝶たちが特別展に舞い降りにけり

老いの知恵友を見舞いて湧き出でし妻の浴後にわれ床につく

城跡に春を探せば花筏花のさかりはよべの夢の中 (*)

うつし世の虚栄の極みかフォロワーが売り買いされるインスタグラム

五輪終え熱気過ぎ去り我が日々三十一文字の時間戻りき

七年目記事の弱まる震災の私の記憶は「Hell on earth」

阿久悠のニュース短歌を試みて没後十年オマージュとせん

久々にぎっくり腰で床につき無為の時間を作歌にあてり